



学校健診における脊柱側弯症	1ページ
三重病院でのQCサークル活動院内表彰について／5病棟の生活のひとコマ② 「やまぼとギャラリー」情報コーナー／医療安全川柳<3月>／2017年 HCP市民公開講座のご案内	2ページ
ごあいさつ／三重病院のサラメシ⑨	3ページ
NHO PRESS～国立病院機構通信～について／外来からのお知らせ／外来診察のご案内	4ページ

学校健診における脊柱側弯症

学校健康診断の検査項目に、平成28年4月1日より四肢の状態が追加され、今までの脊椎・胸郭に加え、手足など運動器全体に注意が払われることになりました。

そして、いろいろな運動器疾患全体の中でも、特に気を付けたい疾患として、脊柱側弯症、特に思春期の特発性側弯症があげられます。

その特徴は、

- #1. 10歳以上の女兒に多い
- #2. 胸椎右凸の彎曲が多い
- #3. 痛みを訴えることはほとんどない
- #4. 適切な時期に装具療法を行う必要がある

以上から、問題点として、

- ① 痛みがないので、見て判断するしかない。
- ② 手足のように、すぐ見られない。
- ③ 思春期の女兒の背中全体を見る必要がある。
- ④ 立っている状態で、脊柱のみを見ても、彎曲はわかりづらいことがある。

などがあります。したがって、学校健診のみでなく、ご家族にも注意していただき、早期に脊柱の曲がりを見つけることが重要と思います。



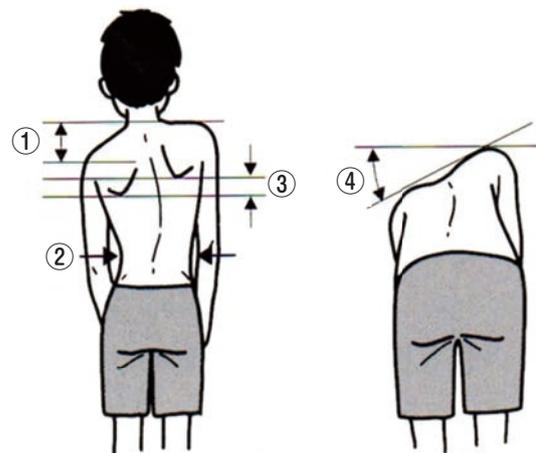
脊柱の彎曲を判断するために、脊柱自体それ以外にも、次の4つが、重要なチェックポイントです。

1. 肩の高さの左右差
2. ウエストラインの左右差
3. 肩甲骨の高さと位置の左右差
4. 前屈時の肋骨隆起と腰部隆起
(高さの左右差)

これらの左右差があると、脊柱側弯が疑われます。その時は、整形外科を受診しましょう。また、気になる点などありましたら、お気軽にご相談ください。

(整形外科 西山 正紀)

脊柱側弯の検査



- ①肩の高さ
- ②ウエストライン(脇線)
- ③肩甲骨の位置
- ④肋骨隆起